

収益向上に向けた 果樹栽培技術習得と観光農園運営の支援

大津・南部農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

栗東市のHファームは、令和3年にブルーベリーの新植とモモ園の継承等により経営を開始されました。令和5年には自社農産物を活用した観光摘み取り園と農家カフェをプレオープンされましたが、ブルーベリーの落果ロス発生やモモの病害、観光農園運営についての課題が見つかりました。そこで、農産物の安定生産に向けた栽培技術習得支援および売上向上に向けた観光農園運営支援を行いました。

【普及活動の内容】

(1)ブルーベリーの栽培技術習得支援

栽培管理および防除について、現地指導により技術習得の支援を行いました。特に、すす点病の発生が問題となったため、薬剤防除および発生後の対応について助言を行いました。また、摘み取り園向けに樹上に多くの果実を残しているため、落果ロスが発生していました。そこで、果実を受け止めるネットを設置し、加工等へ活用できるよう支援しました。



写真1 ほ場でのブルーベリー状況確認

(2)売上向上に向けた観光農園の運営支援

令和6年6月の観光農園のグランドオープンに向け、令和5年度に作成した運営計画を基に、農山漁村発イノベーション支援制度の活用を提案し、デザインや商品開発等を専門とするプランナーを派遣し、助言を行いました。また、運営の現状把握や今後取り組むべき課題の抽出を一緒に行い、より一層安定した運営体制を構築できるよう支援しました。



写真2 作成したPR資材と農家カフェ

【普及活動の成果】

栽培技術の習得および適切な病虫害防除の実施ならびに落果防止ネットの設置により、ブルーベリーの出荷量は425kgとなり、目標の300kg以上を達成しました。観光農園は、プランナーとともに行った助言により、農家カフェの新メニュー開発やPR資材作成、観光農園の情報発信等が行われ、来客数と売上の目標を達成することができました。一方、ブルーベリーで獣害が発生しているため、令和7年度は獣害対策も支援していきます。

◎対象者の意見

ブルーベリーの落果ロス対策のネット設置を提案していただいたことで、今年は加工に活用できて良かったです。(生産者)